



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月14日

上場会社名 宮越商事株式会社 上場取引所 東・大
 コード番号 6766 URL <http://www.miyakoshi-corp.com>
 代表者 (役職名)代表取締役会長兼社長 (氏名)宮越邦正
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)板倉啓太 TEL 03(5493)8111
 四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有・無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	8,668	△33.5	5	△96.8	△1,084	—	△2,348	—
22年3月期第3四半期	13,043	△28.1	179	△64.0	△175	—	△1,222	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	△151 18	— —
22年3月期第3四半期	△78 72	— —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	17,424	5,976	32.3	361 80
22年3月期	20,073	8,487	40.4	522 62

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 5,620百万円 22年3月期 8,118百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	— —	0 00	— —	0 00	0 00
23年3月期	— —	0 00	— —		
23年3月期(予想)				0 00	0 00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 有・無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	12,100	△28.2	60	△70.6	△1,020	—	△2,200	—	△141 61	

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有・無

4. その他（詳細は【添付資料】P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 有・無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有・無

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有・無② ①以外の変更 : 有・無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期第3Q	15,542,176株	22年3月期	15,542,176株
② 期末自己株式数	7,232株	22年3月期	6,978株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	15,535,096株	22年3月期第3Q	15,535,347株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表の四半期レビュー手続は実施中であり、

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、財政危機問題による不安定な欧州経済に加え、米国経済の減速懸念から株安・円高が長期化し、当業界においては依然として先行き不透明感の強い厳しい状況が続いております。

このような状況下、当社グループは主力の映像機器部門において、薄型液晶テレビの主な販売地域であるヨーロッパ市場及び中南米市場の需要が減少傾向に有り販売予想を下回りました。今後は、薄型LEDテレビなど利益率の高い製品に特化した営業戦略により、市場の拡大を図ってまいります。又、中国における物資等の販売事業の内、金属加工部門では昨年来進めてきた事業の再構築により経営基盤が強化され、不動産部門では、賃貸物件が100%近い入居率で推移するなど両部門の業績が向上しております。一方、不動産開発においては、深セン市中心部に保有している136千平方メートルの土地について、深セン市都市更新プロジェクト「皇冠科技园」として、開発計画申請の準備を進めております。又、国内の有機食品事業につきましては、販売部門の関連会社である(株)ジェーシープランニングが、10月1日から株式会社ビオカに商号変更し、商品も新たなオーガニックの**BIOCA**ブランドとして、一層安心・安全な食品を市場に提供してまいります。

尚、当四半期連結累計期間において、長期貸付金について回収可能性を保守的に検討し、1,142百万円の貸倒引当金を計上いたしました。又、子会社ののれんについて償却いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,668百万円（前年同四半期比33.5%減）となり、利益面では営業利益5百万円、経常損失1,084百万円、四半期純損失2,348百万円となりました。

事業の種類別販売状況は次のとおりです。

(単位:百万円)

事業別	部門別	当第3四半期 連結累計期間	前第3四半期 連結累計期間	前年同期比
電気機器等の製造販売事業	音響機器	—	599	△100.0
	映像機器	7,776	11,584	△32.9
物資等、医薬品及び 医療器具等の販売事業	金属加工・医薬等	472	443	6.3
不動産開発及び賃貸管理等事業		374	339	10.5
有機食品事業		44	76	△41.7
合 計		8,668	13,043	△33.5

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて2,648百万円減少し17,424百万円となりました。これは、主に貸倒引当金の計上とのれんの償却によるものであります。負債合計は、138百万円減少して11,447百万円となりましたが、これは主に長期借入金の返済によるものであります。純資産は、2,510百万円減少して5,976百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通しにつきましては、株安・円高による景気後退の長期化が懸念される状況下、消費意欲の減退が主力の電気機器の売上高に大きく影響し、企業収益も圧迫されると思われることと、貸倒引当金の計上及びのれんの償却を先行して実施したことから、平成22年11月12日に発表致しました業績予想を一部修正いたします。詳細につきましては、本日別途公表いたします「平成23年3月期通期業績予想の修正及び営業外費用、特別損失の発生に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについて正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

② 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 会計基準等の改正に伴う変更

連結財務諸表に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）を適用し、連結子会社の資産及び負債の評価方法を部分時価評価法から全面時価評価法に変更しております。

これにより、営業利益、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

② ①以外の変更

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	198	302
売掛金	3,284	4,047
たな卸資産	63	77
その他	918	1,727
貸倒引当金	△537	△915
流動資産合計	3,927	5,240
固定資産		
有形固定資産	236	342
無形固定資産		
のれん	561	1,469
その他	1,296	1,374
無形固定資産合計	1,857	2,843
投資その他の資産		
長期貸付金	16,176	16,025
その他	831	174
貸倒引当金	△5,605	△4,553
投資その他の資産合計	11,402	11,647
固定資産合計	13,496	14,833
資産合計	17,424	20,073
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,295	2,309
短期借入金	498	500
未払法人税等	79	82
引当金	11	7
その他	457	384
流動負債合計	3,342	3,285
固定負債		
長期借入金	7,680	7,860
引当金	30	58
その他	394	382
固定負債合計	8,105	8,300
負債合計	11,447	11,586

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,164	8,164
資本剰余金	7,848	7,848
利益剰余金	△9,738	△7,389
自己株式	△10	△9
株主資本合計	6,264	8,613
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△644	△494
評価・換算差額等合計	△644	△494
少数株主持分	356	368
純資産合計	5,976	8,487
負債純資産合計	17,424	20,073

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	13,043	8,668
売上原価	12,415	8,186
売上総利益	628	482
販売費及び一般管理費	448	476
営業利益	179	5
営業外収益		
受取利息	36	6
その他	0	3
営業外収益合計	36	9
営業外費用		
支払利息	19	16
貸倒引当金繰入額	—	1,026
為替差損	372	—
その他	0	57
営業外費用合計	391	1,099
経常損失(△)	△175	△1,084
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1	3
賞与引当金戻入額	—	2
その他	—	0
特別利益合計	1	5
特別損失		
債権譲渡損	1,007	—
のれん償却額	—	826
その他	0	392
特別損失合計	1,007	1,218
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,181	△2,297
法人税、住民税及び事業税	28	34
法人税等調整額	14	13
法人税等合計	42	47
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△2,345
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1	3
四半期純損失(△)	△1,222	△2,348

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	電気機器等 製造販売事業 (百万円)	物資等、医薬 品及び医療器 具等販売事業 (百万円)	不動産開発 及び賃貸管 理等事業 (百万円)	有機食品 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	12,183	443	339	76	13,043	—	13,043
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	59	—	59	(59)	—
計	12,183	443	399	76	13,103	(59)	13,043
営業利益又は営業損失(△)	412	△123	51	△31	308	(129)	179

(注) 1 製品・商品の種類、販売方法等の共通性、損益集計区分及び関連資産等に照らし、事業区分を行っておりません。

2 各事業の主な製品

事業区分	主要製品
電気機器等製造販売事業	カラーTV、DVDプレーヤー、マルチメディアプレーヤー等
物資等、医薬品及び医療器具等販売事業	金属加工品、雑貨等、医薬品、ライセンス手数料等
不動産開発及び賃貸管理等事業	賃貸料、管理料等
有機食品事業	有機レモン果汁、有機オリーブオイル、有機ドレッシング、有機パスタ類等

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占めるアジア地域の割合が100%のため、所在地別セグメント情報については記載しておりません。

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

当社及び連結子会社の海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高については記載しておりません。

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業統括部を置き、事業統括部は事業の種類別に取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。

したがって、セグメントについては事業の種類別に構成されており、「電気機器等の製造販売」「物資等、医薬品及び医療器具等の販売」「不動産開発及び賃貸管理等」「有機食品」の4事業を報告セグメントとしております。

各事業の主な内容は以下のとおりです。

① 電気機器等の製造販売

当事業は、映像機器等を中心とした委託生産品の販売を行っております。

② 物資等、医薬品及び医療器具等の販売

当事業は、医薬品等の卸販売、物資等の仕入・販売及び金属加工の製造・販売を行っております。

③ 不動産開発及び賃貸管理等

当事業は、不動産の開発、所有物件の賃貸及び管理業務を行っております。

④ 有機食品

当事業は、有機（オーガニック）食品の仕入・製造販売を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	電気機器等の製造販売	物資等、医薬品及び医療器具等の販売	不動産開発及び賃貸管理等	有機食品	計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,776	472	374	44	8,668	—	8,668
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	53	6	60	—	60
計	7,776	472	428	50	8,728	—	8,728
セグメント利益又は損失(△)	161	△17	78	△4	217	—	217

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	217
セグメント間取引消去	1
のれんの償却額	△81
全社費用(注)	△131
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	5

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

5 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「物資等、医薬品及び医療器具等の販売」セグメントにおいて、当該セグメントに帰属する連結子会社2社につき、事業計画の見直しを行い、のれんの一時償却を行いました。当該事象によるのれんの減少額は当連結累計期間においては826百万円であります。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。